

港区立

港郷土資料館

行ってみよう!

第4号



うきよえ

— 港区の名所と絵草紙屋 —



江戸時代には
芝大神宮の近くに、
こんなお店が
あったらしいよ。

なにを
売って
いたのかな？



港郷土資料館

浮世絵ってなんだろう？

「浮世絵」とは、-浮世- つまり世の中のことを描いた絵のことです。江戸時代の絵師（画家）によって描かれはじめ、絵師が直接描いたもののほか、多色摺りの版画も作られるようになります。版画は比較的安い値段で買うことができたため、江戸の町の人びとの間で大流行しました。

浮世絵には名所を描いた〔風景画〕や、人気の歌舞伎役者を描いた〔役者絵〕、美しい女の人を描いた〔美人画〕などがあります。浮世絵を見ると、昔の町のようすや、人気者を知ることができ、人びとの暮らしぶりが生き生きと伝わってきます。



平成18年度の港郷土資料館の特別展は、港区の名所を描いた版画の「浮世絵」をたくさん展示しているよ。展示資料のうち、高輪の海岸を描いたものを見て、江戸時代の風景を想像してみよう！



牛が印象的な絵だね。江戸時代の高輪では荷物を運ぶための牛がたくさん飼われていたんだ。



この絵の手前に描かれている石垣は高輪の大木戸。江戸時代には、この大木戸が江戸の町の入り口だったんだ。今も残っている高輪大木戸跡の石垣を自印に、どの辺りが描かれているのか考えてみよう！

「東都三十六景〔高輪海岸〕」
歌川広重 二代 文久2(1862)年

海沿いの大きな通りは、今の第一京浜国道だよ。東海道と呼ばれていました。



「東海道高輪風景」五雲亭貞秀 文久2(1862)年

浮世絵は港区で作られた！

表紙に描かれたお店は、浮世絵や本などを作ったり売ったりした「絵草紙屋」です。絵草紙屋は江戸時代の芝神明地域（現在、芝大神宮がある辺り）にたくさんありました。この辺りはとてもにぎわっていて、江戸の町に住む人びとのほか、東海道を歩いて江戸にやってくる旅人が立ち寄る場所でもありました。浮世絵は旅人がおみやげに持ち帰ることもあり、江戸の町のようすや流行を地方の人びとも知ることができました。



「女子教訓狂哥合」
香蝶楼国貞 天保14(1843)年

「和泉屋市兵衛」という芝の有名なお店で作られ、売られた浮世絵。

「東海道名所図会」
寛政9(1797)年

芝の絵草紙屋の店先が描かれています。



どこの風景かわかるかな？
答えは裏表紙を見てね。



この門は見たことあるぞ！

ここは、様子がだいぶ変わっているよ。のぼりに書かれた文字がヒントだよ。



この絵は明治時代になってから描かれたものです。何かのお祝いの場面みたいだね。汽車が止まっているけど、どこだろう？



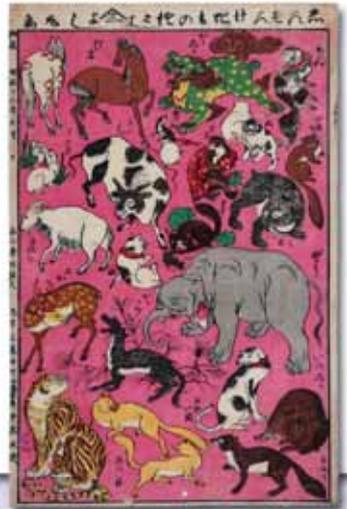
遊ぼう! 学ぼう!



浮世絵には「すごろく」などのゲームや、切り抜いて組み立てて遊ぶ「組上絵」、何々づくしと呼ばれた「物づくし絵」など、子ども向けに作られたものもありました。右の絵は、いろいろな動物が描かれた「けだものづくし」です。子どもたちは、この浮世絵を見て、楽しみながら動物の名前をおぼえることができたんだ。

あれ? 実在しない不思議な動物も描かれているよ。

「志んはん けだものづくし」 よし丸 明治16(1883)年



前ページの浮世絵は、どこを描いたものかわかったかな? これらの浮世絵は、港郷土資料館の特別展「UKIYO-E 一名所と版元」〔平成18年10/20(金)~12/3(日)〕で展示します。見に来てね! また、11月18日(土)と25日(土)には、親子学習会「浮世絵ってなに? 一遊ぼう!学ぼう!江戸文化」(小学校4・5・6年生と保護者対象)を開催します。応募の方法などはチラシや「広報みなと」「港郷土資料館ホームページ」を見てね。



前ページの答え

- ①「江戸名勝図会〔増上寺〕」歌川広重 二代 文久元(1861)年
増上寺の三門(三解脱門)です。この門は元和8(1622)年に再建されたと伝えられています。
- ②「江戸名勝図会〔虎の門〕」歌川広重 二代 文久元(1861)年頃
虎ノ門の金刀比羅宮の辺り。左に見える坂は葵坂。溜池から外堀に流れ落ちる水が滝のように見えています。この水の流れは「どんどん」と呼ばれていました。葵坂も溜池も今はないので、ちょっとむずかしかったかな?
- ③「東京汐留鉄道御開業祭礼図」歌川広重 三代 明治5(1872)年頃
新橋(汐留)です。日本で最初の鉄道が開業したときの新橋停車場でのお祝いのようなすを描いたもの。着物姿の人のほか、ドレスを着た人もいるね。新橋停車場は大正3(1914)年に貨物専用の汐留駅となり、昭和61(1986)年にはその役割を終えました。



港郷土資料館利用のご案内

開館時間

午前9時~午後5時(さわれる展示室は火・水・金・土の午後0時30分~4時30分)
(特別展期間中〔平成18年10/20~12/3〕の火曜日は午後7時45分まで開館します。さわれる展示室はいつもと同じです。)

休館日

日曜日・祝日・毎月第3木曜日・年末年始・特別整理期間
(特別展期間中は月曜日と第3木曜日〔11/16〕が休館です。)

交通

JR「田町」駅下車徒歩5分
都営地下鉄三田線または浅草線「三田」駅下車(A3出口)徒歩2分
都営バス「田町駅前」停留所下車徒歩1分
港区コミュニティバス(ちいばす)「田町駅前」停留所下車徒歩1分
「田町駅西口」停留所下車徒歩3分



港区立 港郷土資料館へ行ってみよう! 第4号

平成18(2006)年10月16日発行

編集・発行 港区立港郷土資料館 〒108-0014 東京都港区芝5-28-4 ☎03(3452)4966
http://www.lib.city.minato.tokyo.jp/muse/j/
イラスト:横山真弥 デザイン:annes 印刷:(株)文洋社

刊行物発行番号
18087-7541

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています。 白色度70%